

# 福井県のササ属について(1)

松村敬二

昭和48年より、福井県の植生調査委員を命ぜられ、主として、ブナミズナラ林をその調査の対象としてきた。所が群落の重要な要素となるササ属の分類について、曖昧なところが多く、調査上、出来得る限り標本を採集し、専門家の同定を受けた。今回は、ササ類6属の中、アズマザサ属とササ属の2属について報告する。ササ属は、チシマザサ節、アマギザサ節、チマキザサ節、ミヤコザサ節の4節に分けられているが、本県で採集されたのは、チシマザサ節とチマキザサ節の2節のみであった。

本研究に当り、タケ、ササ類の同定、並びに、指導は、玉川大学農学部植物生態学教室の鈴木貞雄博士より受け、多数の文献を借用し、且つ引用をしたので、本紙上より厚くお礼申し上げる。

## 1 最深積雪累年平均とササ属の分布

太平洋側では、最深積雪50cmにそってミヤコザサが分布し、更に最深積雪75cmにそってスズタケが分布している。それぞれの名をとって、ミヤコザサ線、スズタケ線と命名された。

(1959 鈴木貞雄)

スズタケは、ブナ林の林床にあって、重要な標徴種として位置づけられブナースズタケ群落と呼ばれている。

日本海側では、ブナースズタケ群落に対して、ブナチシマサザ群落が対応している。

本県では、チシマサザ節は、海拔600m以上に多く、これは、ブナミズナラ林の分布と一致する。チマキサザ節は、海拔100m以上に多く、これは、クリーコナラ林の分布に近い。アズマザサ節は海拔100m以下の平野部に分布し、現在では、田の畔、池塘、崖、堤防、クロマツ林の林縁等に多い。

このように等高線や地形とチシマサザ節、チマキサザ節、アズマザサ属の分布とは、大体一致している。

そこで、年最深積雪累年平均と等高線とは、相関関係にあるので、年最深積雪累年平均とササ類の分布との関係を求めてみた。

図表1は年最深積雪累年平均の100cm・150cmの等深線を描き、そこへ、ササ類の採集地を記入したものである。

年最深積雪累年平均が150cm以上の地域にはチシマサザ節が分布し、100cm～150cm以内の地域には、チマキサザ節が分布している。チマキサザ節は一部150cm以上の地域にも分布しているが、この地は、地形の緩い地域である。アズマザサ属は100cm以下の平地に分布している。丹南・敦賀、三方地区の採集が少ないので、今後丁寧に採集を続けていくと、一部修正されると

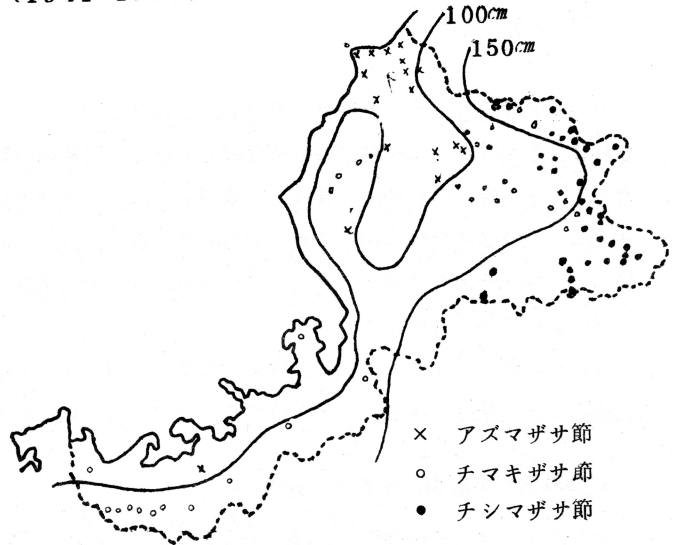
ころもでてくると思われるが、大局に於てはこのような分布域を形成していると考えられる。

生物は、最も困難な生活条件の時に、その環境に適するように進化するといわれている。ササ類もまた、最も困難な寒冷期をどう生きのびるかが問題である。乾燥に弱いササ類の冬芽の位置がその決め手となる。

雪の少ないところのアズマザサ属の冬芽は、地上20cm位のところにあり、チマキザサ節は地上50cm位のところに

ある。最も雪の多いところに生活しているチシマザサ節は100cm~150cm位の位置にある。

図表1  
年最深積雪累年平均とササ類の分布(1974, 松村)  
(1941~1970年)



## 2 ササ属の分類と分布

### チシマザサ節

チシマザサ *Sasa Kuriensis* (Ruprecht) Makino et Shibata

ササ属の中で最も大きくなり、稈の高さが2m内外、太さは2cm位までになる。稈基は強く湾曲しているので、ネマガリダケの別名がある。正型は、稈の各部に毛がなく、葉も両面無毛で、革質で厚く裏面の中肋および側脈に光沢がある。

樺太、千島、北海道、本州、朝鮮に分布し、北限は樺太の(N51°)東限は中千島のケトイ島(E152°)でササ属の中で最も北および東へ伸びている種である。本州では東北地方の全域に分布するが、本州中部以西では、次第に日本海側に分布が偏り、中部山岳を境にして、それより南には出ないで西進して山陰地方に達して、中国山脈のほぼ中央である美作、伯耆国境(N35°)

それより日本海の島、さらにうつ陵島を経て、北朝鮮の咸鏡北道明川(E129°)に達して西限となっている。

垂直分布上からみると、チシマザサは、オクヤマザサやクマイザサと共に最も高く上り、高山のハイマツ帯まで上る。

分布の上から見るとチシマザサは、最っとも耐寒性の強いササのように思うが、多雪地方に分布することからむしろ乾燥に弱いとみるべきであろう。

(採集地)

和泉村(米俵, 三面)。大野市(湯上, 上小池)。勝山市(小原峠)。

ナガバネマ加里 *Sasa Kuriensis*(Ruprecht)Makino et Shibata f. *Uchidai*(Maki no)S・Suzuki.

チシマザサの品種で、葉の基部が鈍形ないし広楔脚、先端漸尖頭である。

(採集地)

大野市能郷白山。

オクヤマザサ *Sasa cernua* Makino

稈の高さは2m位、稈基の太さ1~2cmで強くわん曲し、剛壮である。稈の上部でやや疎に枝を分岐する。稈鞘、葉鞘、節に毛がなく、節間は通常無毛であるが、ときに逆毛がある。葉は紙質でチシマザサより薄く、かつ巾が広く長楕円形で、葉裏の中肋および側脈に光沢がなく、通常短毛があるか全く無毛かである。

(採集地)

和泉村(久沢峠, 大谷隧道, 箱ヶ瀬, 大谷, 悪原谷, 野尻, 長野)

勝山市(大日山)。

コンセイザサ(コンスイザサ)

*Sasa cernua* Makino var. *nikkoensis*(Nakai)S・Suzuki

オクヤマザサの変種で、葉裏は全く無毛である。

南樺太の(N48)°を北限とし、北海道および本州中部(N35)°の線以北に分布する。垂直分布では、本種はチシマザサやクマイザサと共に最も高所に上る種であって、長野県燕岳の頂上近くの2,700mがこれまでの最高である。

(採集地)

永平寺町冠岳, 勝山市(中野俣, 小原峠, 赤兎山付近)大野市(勝原, 鳩ヶ湯)和泉村(入谷, 久沢峠)

エゾミヤマザサ *Sasa Tatewakiana* Makino

稈の高さは約1.5m、稈基の太さ約1cmで、稈の各部に毛がある。稈鞘、節と節間に逆向の短毛または細毛が密生してピロウド状である。葉鞘には上向きまたは開出する細毛が密生してこれもピロウド状である。

葉は披針状長楕円形で基部は円形または截形、先端はやや急尖頭。紙状革質で表は無毛であるが、裏にはうすく細毛が生えている。

(採集地)

和泉村(朝日前坂, 下山, 久沢上, 久沢下。)

チマキザサ節

チマキザサ(サトチマキ) *Sasa palmata*(Marliac)Nakai

本種は稈の高さが1.5~2m、稈基の太さが7~8mmで剛壮である。正型では、環の各部に毛がない。葉は卵状楕円形が広い披針状長楕円形。ときには披針状長楕円形、基部は円く、先端は急

に尖り両面には、全く毛がない。肩の毛は通常よく発達し、放射状であるがときに全くこれを欠くこともある。

樺太、千島、北海道、本州、四国、九州に分布し、ササ属のうちで最も広く分布する種の一つである。北限は南樺太の(N48°)東限は千島列島のエトロフ島(E148°)、南限は九州中部の(N33°)西限は対島の(E129°)である。垂直分布の点からみると亜高山帯上部まで分布し、最高は2,040mである。チマキザサ節は多雪地帯を分布の中心とするため、本州の裏日本、中部以北では低地に普通分布している。本州西南部、四国、九州では通常高山ないし深山に偏生している。葉は千巻や菓子を包み、すしに添えるなどに利用されるため栽培されていることがある。

(採集地)

芦原町浜井寺。金津町熊坂。丸岡町友末。永平寺町轟。上志比村栗住波。永平寺町冠岳。勝山市(平泉寺町上野。北谷町中野俣。野向町横倉。北谷町小原。小原峠。赤兎山。兜山。)大野市(湯上。猪野口。亀山。)美山町小和清水。清水町糸生。和泉村(箱ヶ瀬。谷戸口。久沢。)敦賀市(白木。池の河内。)名田庄村(出合。須縄。田茂谷。納田終。下。堀越峠口。)小浜市下根来。

フシゲサトチマキ Sasa palmata(Marliac)Nakai f-pustralis

チマキザサの1品種で、節に長毛または短毛が密生している。

(採集地)

清水町田尻。三国町雄島。大野市木本。大飯郡高浜町内浦。

ケザサ Sasa pubens Nakai

稈は真直であるが、基部は斜上し、高さが1~1.5mに達する。稈の下部で枝が疎に分岐する。稈鞘は逆向する長毛と少し短い毛が密に混生してピロウド状である。節間にも逆向する細毛が密生する。節は僅に隆起し、開出する長毛が密生し、ときには長毛がなく逆向の短毛が密生することもある。葉鞘には上向する短毛かまたは細毛が密生してピロウド状となるかまたは毛がうすい。葉は薄い革質で長楕円状披針形、基部は円く、先端がやや急に尖り、両面とも全く無毛であるが、ときに裏面の基部だけに短毛があることもある。肩の毛は発達して放射状となる。

ケザサは葉は無毛であるほか、植物体全体に毛があり、特に稈鞘に逆向する長毛が密生してピロウド状であることが特徴である。

本種のタイプ産地は、新潟県刈羽郡内郷村であるが、栃木県権兵衛峠から報告された、ゴンベイザサ Sasa gombaiana koidzumi がその Synonym であることがわかり分布域が拡がり富山県そして福井県にも産することがわかった。現在まで知り得たケザサの産地は、本州中部の裏日本に限られ分布域は比較的狭く、生育地はいずれも海拔600m以下の低山である。

(採集地)

足羽郡美山町(高田橋。計石。)大野市(大門。湯上。)

フゲシザサ Sasa fugeshiensis koidzumi

稈は長く1.5~2mにもなる。正型では、稈鞘、節、節間にそれぞれ逆向する細毛が密生し、葉

鞘には微細毛がうすく生え、ほとんど無毛のこともある。葉は卵状長楕円形ないし長楕円形、うす革質で基部は円く、ときにやや心臟形または切形、先端はやや急に尖り両面に全く毛がない。肩の毛は通常発達しない。本種は葉が無毛であるほか植物体全体に毛のあることで、ケザサにきわめてよく似ているが、稈鞘の毛の状態が、前者では逆向する細毛が密生しているのに対して、後者では逆向する長毛とやや短い毛が密生してピロウド状を示していることで区別する。

フゲシザサは、1935年に石川県鳳至郡川原田村から報告されたものであるが、その後独立種として発表されたオタフクザサ、クレハザサ、アサヒザサがSynonymまたは変種として本種に統合された。

本州中部、北部の日本海岸に分布していたが、最近山口県からも報告され、北陸から山陰地方にも分布する可能性が強くなり、調べたところ福井県の嶺北からも随所に採集された。

本種では、ケザサと同じく、主として100m以下の低山に多いが、ときには、亜高山帯近くまで達することがある。尾瀬の1,700mが最高である。

(採集地)

永平寺町光明寺。足羽郡美山町宿布。丹生郡清水町糸生。勝山市平泉寺。大野市(蕨生。佛原。)和泉村(大納。後野)

ヤヒコザサ *Sasa yahikoensis* Makino

稈は基部が斜上し、高さ1~2mに達する。正型では稈鞘。節。節間に逆向する短毛または細毛が密生し、葉鞘は開出する短毛と細毛が密に混生または細毛だけが密生する。葉は長楕円状披針形で紙質、基部は円形、先端は漸尖または急に尖る。葉の表には、無毛または長毛が疎生し、葉裏に軟毛がある。肩の毛は発達して放射状となる。

ヤヒコザサは、新潟県弥彦山の採集品に基づいて命名された。ケザサ、フゲシザサとよく似ているが、葉裏に軟毛が密生するので区別できる。

分布域は樺太(N47°)南千島のクナシリ、シコタン島(E147°)北海道、本州(福井)が南限にあたる。一般に標高1,000m以下の低山に多いが稀に1,900m、ハイマツ帯まで分布していることがある。

(採集地)

清水町栃谷。勝山市平泉町大矢谷。勝山市小原峠。

クマザサ *Sasa veichii*(Carriere)Rehder

稈は基部が斜上し、高さ1~1.5mにもなる。稈鞘は全面に開出する長粗毛が密生し、ときには基部だけに粗毛が生じ、その他の面に毛がない。節は無毛または開出する長粗毛が密生する。節間は無毛またはまれに逆向する細毛がある。葉鞘は無毛。葉は広い線状長楕円形で基部が円く先端は急に尖っている。ときに長楕円形、卵状長楕円形。紙状革質で表裏とも無毛、肩の毛は一般によく発達し、放射状を示している。

今のところクマザサの自生地は、京都市北方山地(鞍馬、大原)だけである。

(採集地)

永平寺町轟。勝山市岩屋口。

オオザサ *Sasa Veitchii*(Carricre)Rehder Var. *grandifolia*

グマザサの一変種で、葉が大きく長楕円状披針形、または卵状長楕円形、基部は円く、まれに截形ないし浅心形、先端はやや尖る。冬は全く隈どらないかまれに僅に隈どる。節間は無毛、節は無毛、または細毛がある。

(採集地)

金津町市野々。丸岡町鳴鹿。勝山市平泉寺町岩ヶ野。名田庄村坂本。三方郡美浜町。

チウゴクザサ *Sasa Veitchii*(Carr)Rehder Var. *hirsuta*(koidz)S. Suzuki

クマザサの変種で、オオザサと大変よく似ている。異なる部分は、葉の中が狭く、長楕円状披針形である。

(採集地)

武生市坂口。名田庄村坂本。名田庄村(堀越峠中復。堀越峠山頂付近)

クテガワザサ *Sasa hetrotricha* koidzumi

稈は基部が斜上し、高さ1~2mにも達する。稈鞘は開出する長い粗毛と逆向する細毛が密生する。節間は逆向する細毛が密生し、節は隆起し、無毛または細毛がある。葉鞘は上向または開出する細毛が密生し、ピロウド状を呈し、ときに少し長い毛が混在する。葉は長楕円状披針形または長楕円形、基部が円く、先端がやや急に尖り、紙質、表裏とも全く無毛、または裏面の基部にだけ細毛がある。肩の毛は放射状で早落性である。

本種は本州東北地方の日本海側(E141° N39°)から北陸地方にかけて、海拔1,000m以下の低山地に産する。富山県、石川県の能登方面が南限、西限であったが山口県に近年発見された。中間の福井、山陰地方からも採集されることが期待されていたが、筆者が勝山市岩屋において採集した。

(採集地)

勝山市北郷町岩屋

アズマザサ属

ササ属とメダケ属の中間型をしているが、枝は1節から1本出ていることはむしろササ属に近い。

(図1)

稈は通常2m内外、稈基は直径5~8mmでやや軟弱である。この属は最初(1900年)に牧野富太郎博士によって東京の小金井で発見されそれでアズマザサ(東笹)と名付けられ、それを代表種としてアズマザサ属が設定された。

アズマザサ *Sasaella ramosa*(Makino)Makino

稈の高さ1~2m稈径8mmにも達し、帯紫色であって、上方で分枝し、無毛である。枝は各節に1個つける。葉は3~5個、広披針形で鋭尖頭、基部は円く薄い革質で下面は通常細毛があり、長さ15cm幅2cmに達し、冬期は葉縁は多少白色に隈どる。稈鞘は無毛、肩毛は下半部が剛く、基部にだけ細毛があり、それ以外は平滑である。

(採集地)

芦原町横垣口。

カリハシノ *Sasaella karihasis* Koizumi  
 (採集地) 三国町雄島。三国町浜地

オオサカザサ *Sasaella Hashimotoi* (Makino) koidz  
 (採集地) 三国町平山。芦原町舟津。

ウゴザサ *Sasaella Minguchi* Makino et koidz  
 (採集地)

三国町(松島。浜地。加斗。)金津町(中川。駅裏。)福井市(浄土寺町。福井市東藤島。足羽町脇三。)松岡町志比塚。永平寺町轟。勝山町平泉寺。武生市安養寺。小浜市谷口。

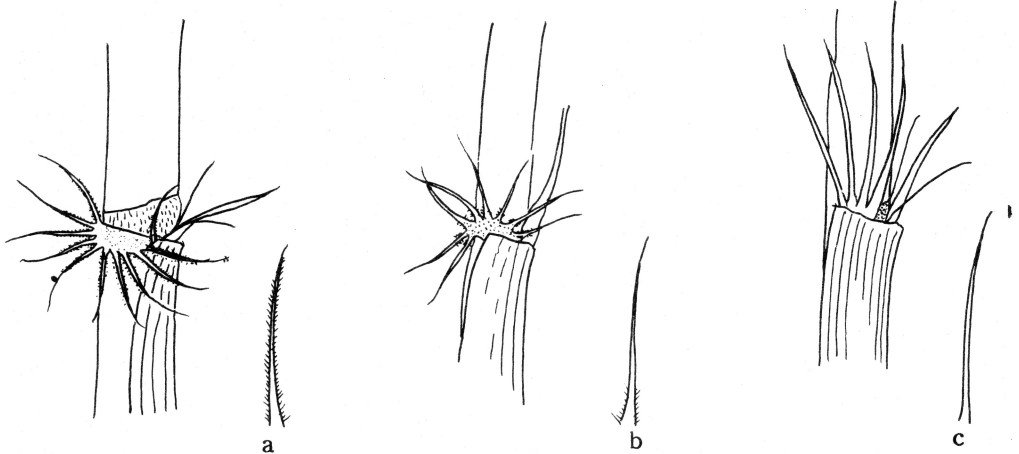
トミクサザサ *Sasaella lomirusensis* (nakai) nakai et koidz,  
 (採集地) 金津町友末

グシヨウシノ *Sasaella Tashirozentaroana* koidz.  
 (採集地) 永平寺町光明寺

ヒシユウザサ *Sasaella hidaensis* Makino  
 (採集地) 清水町糸生。

アズマザサ属は、種名と採集地だけの記載にとどめたのは、本年中に鈴木貞雄博士から発表されるので割愛した。

図 1



A ササ属

B アズマザサ属

C メダケ属

a, b, cはそれぞれの1本の毛の拡大図

あ と が き

ササ類では、ヤダケ属メダケ属の採集品があり、タケ類では、マダケ属とナルヒラダケ属の採集品がある。整理が付き次第発表をしたいと考えている。

研究の日の浅く、不備なところが多いと思われるのでみなさま方のご叱正やご指導をお願い申し上げます。

参 考 文 献

- |                       |   |              |
|-----------------------|---|--------------|
| 鈴木貞雄 ( 1964 )         | ササ属の分布域の研究(1)   | ヒコピア第4巻第1-2号 |
| 〃 ( 1965 )            | ササ属の分布域の研究(2)   | ヒコピア第4巻第4号   |
| 〃 ( 1967 )            | ササ属の分布域の研究(3)   | ヒコピア第5巻第1-2号 |
| 〃 ( 1969 )            | ササ属の分布域の研究(4)   | ヒコピア第5巻第3-4号 |
| 〃 ( 1971 )            | ササ属の分布域の研究(5)   | ヒコピア第6巻第1-2号 |
| 〃 ( 1973 )            | ササ属の分布域の研究  | ヒコピア第6巻第3-4号 |
| Sadao Suzuki ( 1962 ) | THE DISTRIBUTION AREA OF SASA SECT. CRASSINODI (BAMBUSACEAE) IN SHIMOKITA PENINSULA AND HAKODATE AND ITS VICINITY, JAPAN. THE ECOLOGICAL REVIEW VOL. 15, NO. 4, P. 221-230.                                     |              |
| 〃 ( 1961 )            | ECOLOGY OF THE BAMBUSACEOUS GENERA SASA AND SASAMORPHA IN THE KANTO AND TOHOKU DISTRICTS OF JAPAN, WITH SPECIAL REFERENCE TO THEIR GEOGRAPHICAL DISTRIBUTION. THE ECOLOGICAL REVIEW VOL. 15, NO. 3, P. 131-147. |              |
| 鈴木貞雄 ( 1971 )         | ササ属の生態  | 玉川大学通信教育部    |
| 〃 ( 1974 )            | 竹と笹入門   | 池田書店         |
| 室井 綽 ( 1969 )         | 竹・笹の話   | 北隆館          |
| 大井次三郎 ( 1965 )        | 日本植物誌   | 至文堂          |
- ( 福井県教育研究所 )